

北海道知事選挙の構造とシミュレーション-X

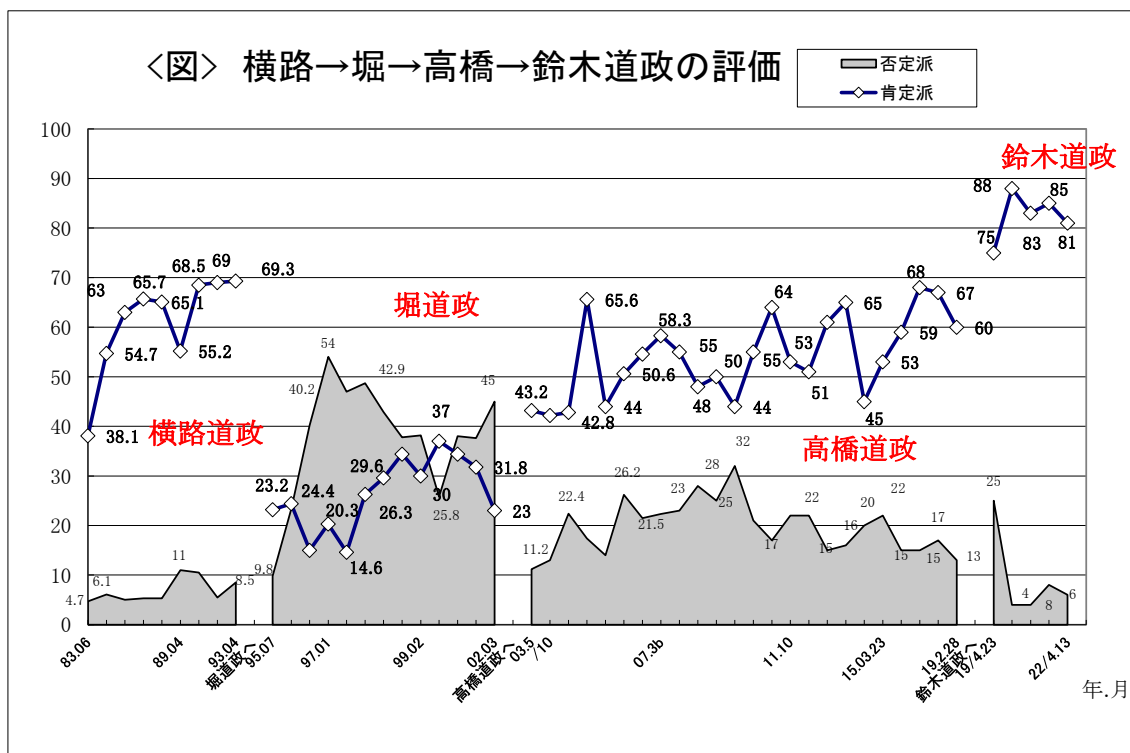
- 2003年知事選挙から現在までを概観

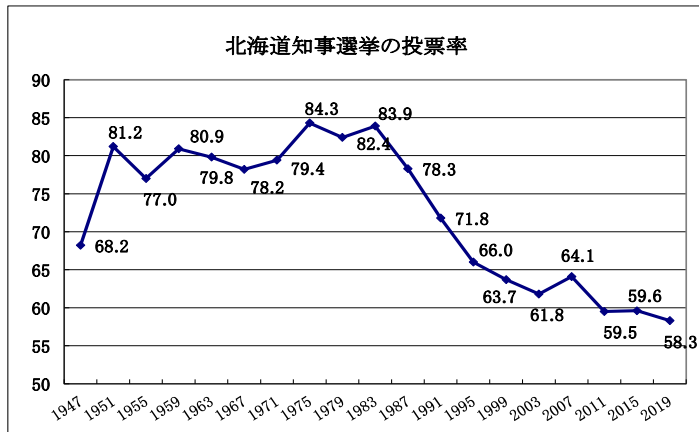
2022.12.20anak

0. 戦後北海道の知事選挙の構造

データ・北海道知事選挙－戦後の得票率構造					*新知事誕生		
	社会・民主系	自民系	共産系	その他	投票率	差(社・民-自)	候補者
1947*	53.8	46.2			68.2/59.4	7.6	※田中vs有馬
1951	54.1	45.9			81.2	8.2	※田中vs黒沢
1955	64.0	36.0			77.0	28.0	※田中vs西川
1959*	46.6	52.8		0.6	80.9	-6.2	※横路vs町村
1963	34.4	63.5	1.6	0.6	79.8	-29.1	※荒vs町村
1967	38.3	61.0		0.7	78.2	-22.7	※塚田vs町村
1971*	49.1	49.6		1.3	79.4	-0.5	※塚田vs堂垣内
1975	44.8	55.2			84.3	-10.4	※五十嵐vs堂垣内
1979	42.9	56.7		0.5	82.4	-13.8	※五十嵐vs堂垣内
1983*	49.0	46.8	4.2		83.9	2.2	※横路vs三上
1987	67.6	28.4	4.0		78.3	39.2	※横路vs松浦
1991	69.8	25.3	4.5		71.8	44.5	※横路vs佐藤
1995*	58.3	27.3	6.1	8.3	66.0	31.0	※堀vs伊東
1999	57.3	29.2	13.5		63.7	28.1	※堀vs伊東
2003*	27.0	29.3	5.2	38.4	61.8	-2.3	※鉢呂vs高橋、磯田、伊東他
2007	33.8	59.8	6.4		64.1	-26.0	※荒井vs高橋
2011	20.4	69.4	6.6	3.5	59.5	-49.0	※木村vs高橋
2015	43.4	56.6	0	0	59.6	-13.2	※佐藤vs高橋
2019*	37.3	62.8	0	0	58.34	-25.5	※石川vs鈴木

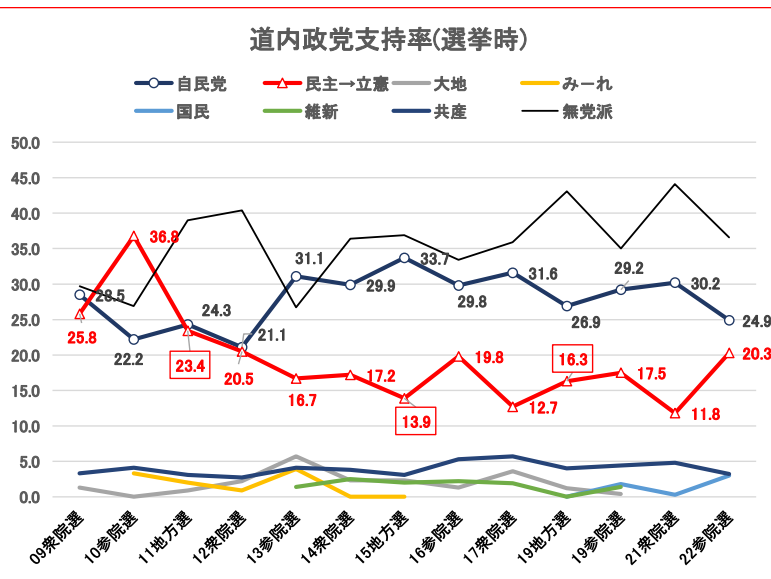
- ①過去 76 年間で北海道知事は－自民系 4 名 11 期 44 年間、社会・民主系 3 名 8 期 32 年間
- ②知事交代はいずれも「新人対決」で決着。
- ③任期最長は高橋はるみ(4 期・2003 年～ 2019 年)。最短は堀辰也(2 期・1995 年～ 2003 年)





④道民世論支持の高さは(1983年以降各期間平均・道新調査)、
 1位-鈴木道政 82.4%。
 2位-横路道政 61.0%。※ 1989年食祭 90億赤字・問責決議
 3位-高橋道政 54.1%。
 4位-堀道政 26.5%。※ 1995年官官接待・カラ出張問題
 ⑤投票率は1983年選挙を境にして年々低下している。

※国政選挙-参院選は1986年以降、衆院選は1990年以降低下傾向



⑥道内政党支持率は、2009年民主党政権時には一時期、民主が自民を上回る。2017衆院選・立憲以降の平均支持率は、

自民支持率が 28.6%
 立憲支持率は 16.5%
 無党派は 38.9%

となっている。
 ⑦ただし選挙投票時(出口調査時は)、無党派層は相対的に投票参加が減少し、さらに各政党支持に

分解して、野党への支持率が増加する傾向がある(自民党への増加はわずか)。

1. 堀知事は3選立候補を断念…2003年北海道知事選挙シミュレーション

支持率調査で見たように、堀道政は全期間を通して、ほぼ支持率より不支持率の方が高いという不名誉な道政だった。これを2期目の知事選挙では自民党との相乗りでカバーし、

※2002年5月作成	
別紙3-「A-2003年北海道知事選挙のシミュレーション」	
◎注目知事選挙での候補者イメージ	
※「B-注目する知事選挙」を参照	
○女性と若者の支持。高い知名度、若さと新鮮さ。市民派・草の根運動からの支持。	
○閉塞感を打破するリーダーシップ。変革への期待感。	
○保守層の一部をも惹きつける人物的魅力と識見。国際感覚。	
○構図としての「官と民の争い」。県庁批判。	
○構図としての「相乗りと無党派の争い」。既成政党批判。	
※「無党派の出番」(投票率アップ)を促すドラマ性。マスコミ好みの演出。	
×多選首長。官僚出身。副知事からの候補。	
×相乗り候補(無節操さ)。	

2003年の3期目も「相乗り」の方向で準備されてきた。

左表のシミュレーションは、2002年5月の[地域政府と政策を考える研究会](座長・山本佐門

◎注目知事選挙から提出されている課題
①「与野党相乗り」の構図(無節操さのイメージ)からの脱却
②「55年体制」型の構図からも脱却
③選挙スタイルも政党・組織主導型イメージからの脱却 ※いわゆる「勝手連型・草の根選挙」に対する市民の共感
④「官民対決」(官の側に立つ)の構図は最悪

北海学園大教授)に提出されたもの(一部省略)。

A表は、1991年の高知知事選挙以来、2002年徳島県知事・横浜市長選挙までの「無党

派候補の勝利」首長選挙からの教訓と課題をまとめた。知事選では、3つのパターンを想定し、「相乗り現職」(実質的に堀知事のこと)に批判的な立場からのシミュレーションを作成してみたものである(得票予測を立てる意味でのシミュレーションとしては初めての試みだった)。

※投票基礎数は「C-99年知事選挙一堀知事の得票構造の分析」を参照										
◎パターン1…いわゆる「無風選挙」相乗り現職と共産・泡沫。投票率58%					◎パターン2…激戦「有力無党派・相乗り現職・共産」。投票率80%					
※相乗りは「総与党的」現職。投票率最大で58%					※相乗りは「総与党的」現職					
	投票基礎数	相乗り現職	共産・泡沫	投80%比		投票基礎数	有力無党派	相乗り現職	共産	現職配分率
自民	560,000	476,000	84,000	0.9×0.85	自民	700,000	200,000	500,000		71.4
民主	412,500	288,750	123,750	0.75×0.7	民主	550,000	350,000	200,000		36.4
公明	270,000	243,000	27,000	0.9×0.9	公明	300,000	50,000	250,000		83.3
自由	120,000	108,000	12,000	0.8×0.9	自由	150,000	100,000	50,000		33.3
社民	105,000	42,000	63,000	0.7×0.4	社民	150,000	125,000	25,000		16.7
共産	270,000	13,500	256,500	0.9×0.05	共産	300,000	80,000	20,000	200,000	6.7
その他	105,000	63,000	42,000	0.7×0.6	その他	150,000	100,000	50,000		33.3
無党派A	828,000	496,800	331,200	0.6×0.6	無党派	1,380,000	880,000	500,000		36.2
計	2,670,500	1,731,050	939,450		計	3,680,000	1,885,000	1,595,000	200,000	
※札幌市長選挙も同様の構図と想定。投票率は58%以下。					※現職は善戦して前回並の得票をしても惜敗。もつと減る可能性あり。					
【投80%比】とあるのは「投票率80%の場合<有権者の関心が最大値>の投票参加率」×「現職への配分率」とした。					公明は現職支持で固まるが、自民支持層の一部が離反。					
※有権者の選択肢が限定されたため、結果的に現職は過去最高得票。					民主支持層は無党派化。共産支持層もつと有力無党派に傾斜する可能性あり。					
自民は前回並、民主微増(伊東分)、公明比率では前回並、										

◎パターン3…激戦・新人対決。投票率80%					
※民主系は「無党派的」新人					
	投票基礎数	民主系	自民系	共産	自民得票分
自民	700,000	50,000	650,000		92.9
民主	550,000	500,000	50,000		9.1
公明	300,000	90,000	210,000		70.0
自由	150,000	50,000	100,000		66.7
社民	150,000	125,000	25,000		16.7
共産	300,000	130,000	20,000	150,000	6.7
その他	150,000	75,000	75,000		50.0
無党派A	1,380,000	780,000	600,000		43.5
計	3,680,000	1,800,000	1,730,000	150,000	
※あくまで基本構造。候補による変化はある。					
ここでは公明、自由は自民系に傾斜。共産は勝ち馬指向に乗る					

投票率はヒートした場合には80%、無風選挙となった場合には、58%にまで低下。

最終的には、堀知事は相乗りでの3選立候補を断念し(2003年1月)、知事候補として逢坂誠二氏(ニセコ町長)に対する期待が高まった(2002年

12月に出馬要請、擁立決議)。

2. 幻の北海道知事選挙ー逢坂氏は立候補を断念(2003.2.2)

民主党などから知事候補として期待されていた逢坂氏が、突然「不出馬」を声明し、結局、民主党・連合は、鉢呂吉雄氏を知事候補に掲げ、短期戦での戦いとなった。

下表は、新人有力候補が出そろった2月始めに行った独自の世論調査結果(調査中に逢坂氏の立候補断念報道があり、調査そのものを中断)。その後の選挙結果と比べて分かるように、「すでに逢坂圧勝の構図」が描かれた状況であっただけに残念なことであった。

幻の知事選挙調査 2003.2.1-2調査、2日に逢坂は出馬断念を表明。調査は昼から中止に。		
対象 札幌市内(白石区)		
知事候補の選択	件数	(全体)
高橋はるみ	52	13.2
逢坂誠二	121	30.8
若山俊六	15	3.8
磯田憲一	52	13.2
酒井芳秀	1	0.3
その他	4	1.0
誰も支持できない	94	23.9
無回答	54	13.7
サンプル数(%へ)	393	100
☆「不出馬宣言」の逢坂がダントツ、超党派の支持。		
高橋・磯田は同率で並ぶ。		
2月1日(土)～2日(日)にかけて実施された世論調査(札幌市内)の結果が明らかになった。2日の昼のニュースで「逢坂が不出馬宣言」と報道され始めたため、調査そのものが中止されたが、逢坂がダントツで、他の有力と見られる候補(予定)を引き離していたため、卑属な表現だが「勿体ない」結果となった。		
調査時点で出馬表明していたのは、共産党推薦の若山のみ。未だ出馬宣言も発していない候補予定者の中で、序盤戦としては逢坂が高橋、磯田をダブルスコアで引き離している。自民では逢坂が高橋、磯田をダブルスコアで引き離している。自民党の候補は、「地方で優位を保ち、札幌での劣勢をカバーする」のがこれまでのセオリーであった。それにしても、若くて、女性の都市型有権者が好みそうな高橋をこれだけ引き離している。選挙通がこれを見ると、おそらく当確印を付けるような調査結果であった。		
逢坂は「政党色が付きすぎた」ことを不出馬の理由としてあげたが、有権者の反応は違っていた。		
逢坂は、自民支持者の中でも、高橋とほぼ互角。民主支持層のほぼ2/3。公明支持層の1/4。共産支持層の中でさえ31%の支持を得ている(共産支持層の若山支持は36.1%)。終盤で各政党が引き締めを図ったとしても、逢坂は十分に、政党を超えた支持を獲得することが確実であった。		

幻の知事選挙調査 2003.2.1-2調査、2日昼から中断									
対象 札幌市内(白石区)									
上段:実数 下段:横%									
知事候補の選択									
	合計	高橋はるみ	逢坂誠二	若山俊六	磯田憲一	酒井芳秀	その他	誰も支持できない	無回答
全体	393	52	121	15	52	1	4	94	54
	100	13.2	30.8	3.8	13.2	0.3	1	23.9	13.7
男性	100	13.5	38.4	3.8	13.5		0.5	19.5	10.8
女性	100	13	24	3.8	13	0.5	1.4	27.9	16.3
20代	100	43.8	18.8		12.5			18.8	6.3
30代	100	20	30		6.7		3.3	26.7	13.3
40代	100	14.3	35.7	5.4	12.5			21.4	10.7
50代	100	7.3	39.4	3.7	13.8		0.9	24.8	10.1
60代以上	100	12.7	24.9	4.4	14.4	0.6	1.1	24.3	17.7
農林水産業	100				50			50	
自営業	100	18.5	55.6	3.7	14.8				7.4
公務員	100	8.3	33.3		16.7			25	16.7
民間・建設製造	100	8.6	42.9	8.6	14.3			20	5.7
民間・販売サービス	100	18.4	35.5	5.3	11.8		1.3	19.7	7.9
主婦	100	9.9	26.4	1.7	12.4	0.8	1.7	30.6	16.5
自由業・学生	100	37.5	12.5					50	
無職	100	13	26	5	15			24	17
その他	100						33.3	33.3	33.3
自民党	100	29.5	27.4	1.1	17.9			14.7	9.5
民主党	100	2	64		16			14	4
公明党	100	5	25		15		5	35	15
共産党	100	11.1	30.6	36.1	5.6			11.1	5.6
自由党	100				75			25	
保守新党	100		100						
社民党	100		60	20					20
新社会党	100		100						
その他の党	100		41.7				8.3	16.7	33.3
支持政党なし	100	12.6	24.4		11.8	0.8		41.7	8.7
無回答	100	4.8	14.3		9.5		4.8	14.3	52.4

3. 2003年北海道知事選挙－選挙結果の構造

…民主・鉢呂が急遽立候補。自民・高橋と大接戦。磯田・伊東らも加わる混戦に

①選挙結果は高橋 79 万 8317、鉢呂 73 万 6321、磯田 42 万 8548、伊東 37 万 1126。投票率は 61.8%。1983 年横路道政誕生時の投票率 83.9%(VS 三上副知事)から、87 年 78.3%、91 年 71.8%、95 年堀 VS 伊東が 66.0%、99 年 63.7%と下がり続けた。

②高橋と鉢呂の差は、6 万 2086(得票率で 2.3%)と接戦。自民支持層は、高橋が 5 割弱しか獲得できず、磯田、鉢呂そして伊東に分散し、とても自民党推薦候補とは言えない状態。公明支持層はどうか 2/3 程度は高橋に投票して面目を保った。

③鉢呂は急遽の立候補の割には、民主支持層のほぼ 2/3 を固め(潜在的な磯田支持が相当あるものと不安視されたが)、自民支持層の一部にも浸透し、無党派からの支持でも相対的に優位に立った。状況からして健闘したと言える結果。

④無党派層が、完全に鉢呂、高橋、磯田、伊東の四人に分散した。

④磯田、伊東の立候補は、高橋、鉢呂の双方に大きな影響を与えたが、特に基礎体力で相対的に劣る鉢呂への打撃の方が大きかった。

2003年北海道知事選挙－選挙結果の構造										
選挙結果		※投票率61.81%。		有権者数 4,536,179						
	有効総数	鉢呂	%	高橋	%	磯田				
	2,725,746	736,231	27.0%	798,317	29.3%	428,548	15.7%			
		伊東	%	酒井	%	若山	%	その他	%	
		371,126	13.6%	167,615	6.1%	142,079	5.2%	81,830	3.0%	
最終調整…基礎数そのものを調整して結果に近づける										
	投票参加	鉢呂	%	高橋	%	磯田				
自民	610,000	78,690	12.9%	300,120	49.2%	97600	16.0%			
民主	500,000	316,500	63.3%	45,500	9.1%	55,500	11.1%			
公明	300,000	24,900	8.3%	194,100	64.7%	34,800	11.6%			
自由	115,000	30,820	26.8%	30,820	26.8%	16,560	14.4%			
社民	115,000	53,245	46.3%	8,625	7.5%	17,250	15.0%			
共産	170,000	15,810	9.3%	12,410	7.3%	10,200	6.0%			
その他	110,000	27,940	25.4%	29,920	27.2%	19,250	17.5%			
無党派A	805,746	188,545	23.4%	177,264	22.0%	169,207	21.0%			
計	2,725,746	736,450	27.0%	798,759	29.3%	420,367	15.4%			
結果差	0	219	0.0%	442	0.0%	-8,181	-0.3%			
	投票参加	伊東	%	酒井	%	若山	%	その他	%	差し引き
自民	610,000	60,390	9.9%	46,360	7.6%	10,980	1.8%	15,860	2.6%	0
民主	500,000	47,000	9.4%	19,500	3.9%	8,500	1.7%	7,500	1.5%	0
公明	300,000	18,900	6.3%	12,900	4.3%	4,500	1.5%	8,700	2.9%	1,200
自由	115,000	18,975	16.5%	8,280	7.2%	5,980	5.2%	3,450	3%	115
社民	115,000	19,435	16.9%	6,440	5.6%	5,060	4.4%	5,175	4.5%	-230
共産	170,000	22,100	13.0%	3,400	2.0%	101,150	59.5%	5,100	3%	-170
その他	110,000	16,170	14.7%	5,720	5.2%	4,950	4.5%	6,380	5.8%	-330
無党派A	805,746	161,149	20.0%	64,460	8.0%	16,115	2.0%	32,230	4.0%	-3,223
計	2,725,746	364,119	13.4%	167,060	6.1%	157,235	5.8%	84,395	3.1%	-2,638
結果差	0	-7,007	-0.3%	-555	0.0%	15,156	0.6%	2,565	0.1%	
※結果との差では、得票率が0.3%以内に収まることで可とした。										
※共産・若山の結果差は、他の党からの支持に誤差が大きいものと推計し、無視した。										

4. 2007年北海道知事選挙－選挙結果の構造

…民主は荒井が立候補も、高橋に大差で敗北(75 万票差・26%)。共産も立起

① 2007 年知事選挙も民主系は候補選考が進まず、前年 12 月に荒井衆議に立候補を要請。事実上、現職との一騎打ちとなった荒井は、民主支持層の 3/4 を固め、無党派の 1/3 などを獲得したが、自民、公明支持層の 9 割、無党派の 2/3 を得た 2 期目選挙の高橋知事には

及ばなかった。

②得票基礎数で、すでに「自民+公明>民主+社民+大地」で差がある中で、無党派の獲得でも2期目の現職優位(特に失点がない)で大差をつけら、圧勝を許した。

有権者総数	4564275	投票率	64.13%	投票数	2,927,113	有効票	2,905,533	有効率	0.9926		
荒井	981994	33.8%	高橋	1738569	59.8%	宮内	184970	6.4%			
アレンジし直した場合											
	投票基礎数	有効票	荒井	%	高橋	%	宮内	%	差引残	残率	無効票
自民	800,000	794,400	63,552	8.0%	726,876	91.5%	3,972	0.5%	0	0.0%	5600
民主	650,000	645,450	477,633	74.0%	154,908	24.0%	12,909	2.0%	0	0.0%	4550
公明	350,000	347,550	27,804	8.0%	318,008	91.5%	1,738	0.5%	0	0.0%	2450
社民	100,000	99,300	64,545	65.0%	28,797	29.0%	5,958	6.0%	0	0.0%	700
共産	200,000	198,600	26,811	13.5%	35,748	18.0%	136,041	68.5%	0	0.0%	1400
大地	190,000	188,480	113,088	60.0%	73,507	39.0%	1,885	1.0%	0	0.0%	1520
無党派A	637,113	631,793	208,492	33.0%	398,030	63.0%	31,590	5.0%	-6,318	-1.0%	5320
計	2,927,113	2,905,573	981,925	33.8%	1,735,874	59.7%	194,092	6.7%	-6,318	-0.2%	21,540
	確定値→	2,905,533	981,994	33.8%	1,738,569	59.8%	184,970	6.4%			
		誤差値	69	0.0%	2,695	0.1%	-9,122	-0.3%			
	政党計										
	2,290,000	78.2%									
①マスコミ各社の出口調査の結果から選挙結果の構造を作り直した。											
②各政党の基礎数を全面的に見直した。											
自民67万→80万、民主70万→65万、公明33万→35万、社民12万→10万、共産24万→20万、大地21万→19万。											
結果として無党派は63.7万となった。											
③この政党の基礎数は、今回の知事選挙に限った変動であり、国政選挙(参院選)分析では別途整理する。											

5. 2011年北海道知事選挙-選挙結果の構造

…無党派頼みの「スーパー公務員」木村に依存、130万票差で大敗。鯉谷が造反立候補

①自民党推薦で3選をめざす高橋に、民主党は「スーパー公務員」と評判の高かった木村を立てた。木村は1月16の日になって出馬表明。新党大地は民主党に対する不満から推薦を撤回し自主投票。民主党道議の鯉谷は独自の考えから立候補。

②高橋は自民、公明支持層の9割超、民主支持層からも4割を超える安定的な支持を獲得し、前回選挙の173万を上回る184万8504票を得て圧勝。しかし投票率は59.46%に低下。

③木村は、民主支持層の5割弱しか獲得できず、民主党推薦候補としての体をなさなかった。

④社民支持層の4割、大地の6割、無党派の7割が高橋に投票し、木村が高橋にどうか優位に立ったのは(それもわずかな差だったが)民主党支持層からの得票だけだった。

投票率	59.46%	有権者数	4,525,968						
有効票	2,661,858	木村	544,319	20.4%	高橋	1,848,504	69.4%		
		宮内	176,544	6.6%	かつや	92,491	3.5%		
		有効票	木村	%	高橋	%	宮内	%	かつや(残票割当)
自民	685,000	34,250	5.0%	643,900	94.0%	0	0.0%	6,850	1.0%
民主	600,000	285,000	47.5%	270,000	45.0%	3,000	0.5%	42,000	7.0%
公明	300,000	12,000	4.0%	279,000	93.0%	0	0.0%	9,000	3.0%
社民	80,000	28,000	35.0%	37,600	47.0%	10,400	13.0%	4,000	5.0%
共産	200,000	18,000	9.0%	50,000	25.0%	130,000	65.0%	2,000	1.0%
大地	150,000	37,500	25.0%	100,500	67.0%	3,000	2.0%	9,000	6.0%
無党派A	646,858	129,372	20.0%	465,738	72.0%	29,109	4.5%	22,640	3.5%
計	2,661,858	544,122	20.4%	1,846,738	69.4%	175,509	6.6%	95,490	3.6%
選挙結果		544,319	20.4%	1,848,504	69.4%	176,544	6.6%	92,491	3.5%
	結果との差	197	0.0%	1,766	0.0%	1,035	0.0%	-2,999	0

6. 2015年北海道知事選挙の基本構造は

…元アナ・佐藤人気に頼る選挙戦に。高橋との差は35万票(13.6%)差に

- ①佐藤のりゆきは、旭川市生まれのジャーナリスト、元アナウンサー。
- ②独自候補を擁立できなかった民主党から支持を受けた他、共産党・維新の党・社民党・新党大地からも支援を受けた。114万6千票を獲得するが、現職の高橋はるみに敗れる(高橋と知事選で争った候補の中で唯一100万票を超え、善戦したが、札幌市内10区すべてで高橋を下回り、頼みとしていた無党派層の支持も伸び悩んだ)

○マスコミの出口調査における比率

[道新]

高橋—自民 84.2、民主 20.6、公明 83.7、共産 21.、大地 333、維新 350、社民 18.3、無党派 49.7
 佐藤—自民 15.6、民主 79.1、公明 15.9、共産 786、大地 66、維新 65、社民 81.7、無党派 50.0
 政党支持率—自民 40、民主 22.7、公明 4.9、共産 5.5、大地 1.4、維新 2.社民 0.7、無党派 17.7

読売 高橋—自民、公明の8割、無党派の4割以上

佐藤—民主、共産の8割弱、無党派の5割強

毎日 高橋—自民 81、公明 72、民主 24、維新と社民は4割弱、無党派 49

佐藤—自民 18、民主 75、共産 8割、維新と社民は6割、無党派 50

NHK 高橋—自民 85、公明 80、民主 20、共産 15、維新 33.3、大地 20、無党派 50

佐藤—自民 15、公明 20、民主 80、共産 85、維新 66.6、大地 80、無党派 50

政党支持率—自民 41、民主 22、公明 4、共産 5、大地 1、維新 2、無党派 23

有権者数 4,471,518 投票率 59.62% 投票総数 266万5803 無効票 2万2315

	Base	佐藤	高橋	%	残または未確定
自民	650,000	91,000 14.0%	559,000 86.0%		0 0.0%
民主	500,000	375,000 75.0%	125,000 25.0%		0 0.0%
公明	250,000	25,000 10.0%	225,000 90.0%		0 0.0%
社民	20,000	15,000 75.0%	5,000 25.0%		0 0.0%
共産	220,000	165,000 75.0%	55,000 25.0%		0 0.0%
大地	120,000	72,000 60.0%	48,000 40.0%		0 0.0%
維新	120,000	72,000 60.0%	48,000 40.0%		0 0.0%
無党派	764,000	328,520 43.0%	435,480 57.0%		0 0.0%
計	2,644,000	1,143,520 43.2%	1,500,480 56.8%		0 0.0%
有効投票率	59.13%	3,053 ※調整分	-3,565 ※調整分		
59.62% 選挙結果	1,146,573	1,496,915	2,643,488		

7. 2019年北海道知事選挙の基本構造 …石川ともひろが立候補。新人鈴木と対決

2019年北海道知事選挙シミュレーション まとめ		※2019.4.9
出口調査		
道新	政党支持率—自民41.3、立憲19.3、国民1.3、公明4.7、共産4.8、大地1.0、維新0.8、社民0.8、無党派20.7、無回答5.3 自民—鈴木86.4、石川13.4、立憲17.0-82.9/共産26.3-73.7 国民鈴木34.2-65.8、公明88.0-11.8、大地64.4-34.4、維新69.6-30.4、社民38.7-61.3 無党派鈴木60.2-石川39.6	
朝日	自民—鈴木85、石川15、立憲 17-83/共産 24-76 無党派—鈴木59-石川41 国民—鈴木38-62、公明84-16、維新72-28	
NHK	政党支持率—自民41(前回41)、立憲19(民主22)、公明5(4)、共産5、国民3、無党派24 鈴木が自民、公明の80%、大地の70%台半ば、無党派の50%台後半。男女とも60%、10-20代の70%、70代以上は50% 石川は立憲、共産の80%、国民の70%、無党派の40%	

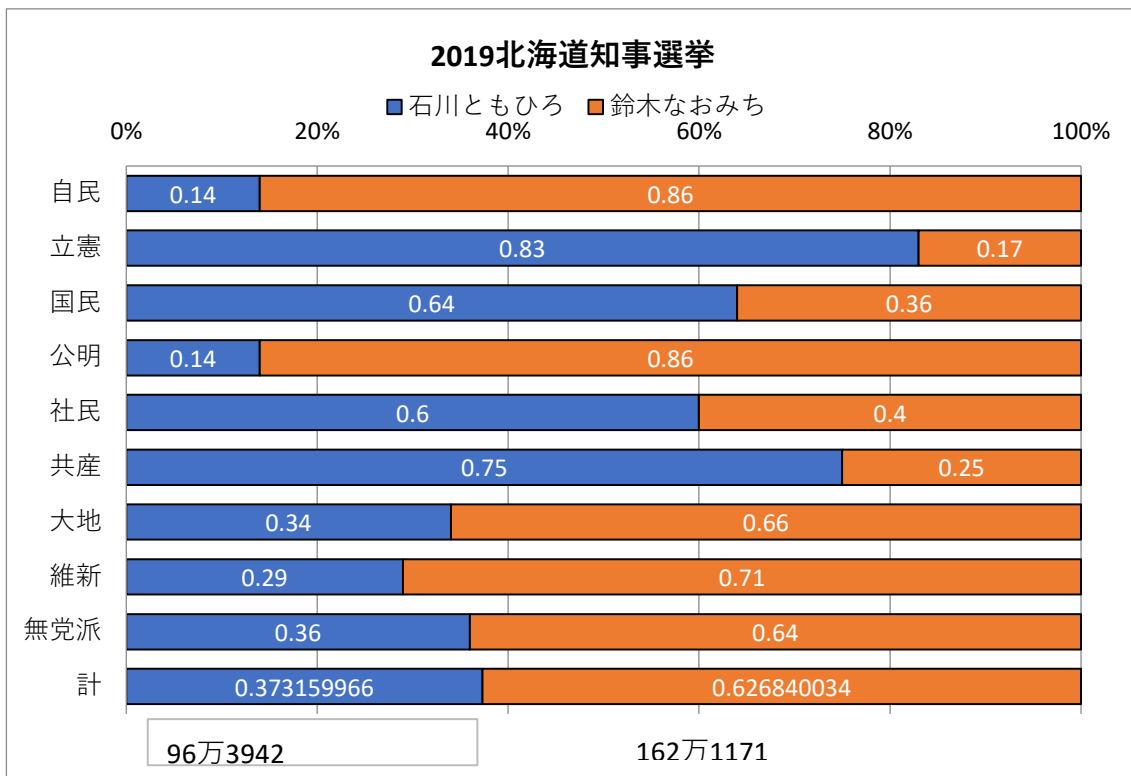
	2,585,113	道新・NHK	
出口政党支持率	Base	*2019出口	2015道新
自民	1,059,896	41	40
立憲	491,171	19	22.7
国民	38,777	1.5	
公明	129,256	5	4.9
社民	25,851	1	1.4
共産	129,256	5	5.5
大地	25,851	1	2
維新	25,851	1	0.7
無党派	646,278	25	17.7
計	2,572,187		
	2,585,113	99.5	

① 2018年12月、現職の高橋はるみが国政進出の意向を示し、2019年参院選に自民党公認で出馬すると表明。2019年1月には夕張市長の鈴木直道が出馬を表明。

② 2019年2月6日、元衆議院議員の石川知裕が出馬を表明。しばらくぶりに政党対決型の知事選挙になる。

SIM-5 Final 選挙結果の基本構造4.9

	Base	石川	鈴木	%	残	
自民	1,060,000	148,400	14.0%	911,600	86.0%	0 0.0%
立憲	490,000	406,700	83.0%	83,300	17.0%	0 0.0%
国民	39,000	24,960	64.0%	14,040	36.0%	0 0.0%
公明	130,000	18,200	14.0%	111,800	86.0%	0 0.0%
社民	26,000	15,600	60.0%	10,400	40.0%	0 0.0%
共産	130,000	97,500	75.0%	32,500	25.0%	0 0.0%
大地	26,000	8,840	34.0%	17,160	66.0%	0 0.0%
維新	26,000	7,540	29.0%	18,460	71.0%	0 0.0%
無党派	658,113	236,921	36.0%	421,192	64.0%	0 0.0%
計	2,585,113	964,661	37.3%	1,620,452	62.7%	0 0.0%
確定票		963,942	37.3%	1621171	62.7%	



8. 2023年北海道知事選挙に向けて ※当日別紙で検討
 …シミュレーション-0 → 条件を付加してSIM-Xの作成